

参考：幻のお茶といわれた「べにふうき」

「べにふうき」茶とは、独立行政法人農業・生物系特定産業技術研究機構野菜茶業研究所（元農林水産省野菜・茶業試験場）にて育成され、1993年に命名、農林登録された品種です。「べにふうき」茶は、1965年に、アッサム雑種の紅茶「べにほまれ」を母（種子親）に、香りの良いダージリン系「枕Cd86」を父（花粉親）に交配されました。このように、もとは紅茶用として開発されたアッサム種に近い品種であったため、香りがふくよかで渋味が強いという特長を持っています。しかし、農林登録後、鹿児島県や静岡県でわずかに生産されるも普及には至らず、一部愛飲者の方々からは、「幻のお茶」ともいわれてきました。

「べにふうき」茶は、カテキン含量が多く、特に抗アレルギー効果が期待される新たな茶葉中機能性成分「メチル化カテキン」を豊富に含んでいることがわかり、今、新たに注目を集めています。また、樹勢が強く多収で、病害にも強いことから、農薬を減らすことができ、安全性、安心性の高い農産物としての期待も高まっています。

その後、気候等の栽培条件が「べにふうき」に適しているという理由で、鹿児島県が現在、中心的な生産地となっています。鹿児島県は、茶業が盛んで生産量も静岡に次いで全国第2位を誇るお茶どころです。この鹿児島県で、農家、県、県経済連、JAならびに、研究機関、メーカー等が参加する「べにふうき育成会」が2003年に発足し、その後着々と本格的な生産体制が整いつつあります。



「べにふうき」茶畑・鹿児島県
（上：知覧町・下：枕崎市）

■ 「べにふうき」緑茶関連年表

年号	トピックス
1965年	農林省茶業試験場（枕崎）で「べにほまれ」を種子親、「枕Cd86」を花粉親とした交配が行われる
1966～1992年	上記交配実生中より枕崎3号（後の「べにふうき」）を選抜
1993年	「べにふうき」を紅茶用・半発酵茶用品種（茶農林44号）として農林登録
1996年（～2001年）	農林水産省野菜・茶業試験場（現・野菜茶業研究所）、九州大、静岡県立大、静岡大が、生研機構基礎研究推進事業として、「茶機能検定系の構築と茶成分新機能の解析」を共同で推進
1999年	野菜茶業研究所が静岡県立大、九州大とともに新たな茶葉中成分「メチル化カテキン」を見出し、論文を発表。「メチル化カテキン」を多く含む「べにふうき」に注目が集まる
2001年（～2006年）	「茶コンソーシアム」が発足、「茶の抗アレルギー作用を利用した食品の開発」プロジェクトがスタート
2003年	鹿児島県内の農家、県、県経済連、JAならびに、研究機関、メーカー等が一体となり、「べにふうき育成会」が発足